THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年五月八日　毎土曜日發兌　第貳拾壹號

此の繪の説明ハ本紙中に在り

The Engraving illustrated in another apge.

東京京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十一號目次

●官報●中外新報拾八件●教育編○ケリー氏幼兒教育學の翻譯●英語の栞〔附羅馬字話なし〕●內外列女傳○女房十五人小傳の內、和泉式部○烈女岡谷きわ子〔前號の續〕○中桂隆の妻徐氏〔表畵傳〕●群芳詞苑○閨秀新品●學藝一斑○西洋女禮一斑○ツールソン氏西洋料理法〔前號の續〕○裁縫二身仕立揚寸法及三ツ身裁方○香道●稗史小說○西江月話〔第三回〕●机の塵○犯姦仕置きの續○源語秘訣源氏之大事十五條●伽草○半殺にして御呉れ○燈謎●和書講義○つれ〲草

明治十九年五月八日

明治十九年 女學叢誌每土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰

	自一行至十行	自十一行至二十行	自廿一行至三十行	自卅一行至五十行
壹回分	八錢	七錢	六錢	五錢五厘
二回分	七錢	六錢五厘	五錢五厘	五錢
三回分	六錢五厘	六錢	五錢	四錢五厘
四回分	五錢	四錢五厘	四錢	三錢五厘

本誌代價表

壹册	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾册	同金三拾八錢	同拾錢
二拾册	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾册	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾册	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾册	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附わらんとを希ふ○郵劵代用ハ御斷り申上候萬一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替分を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎官報

本年四月廿九日

○朕高等師範學校高等中學校東京商業學校の官制を裁可し茲に之を公布せしむ

御名　御璽

明治十九年四月廿九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
文部大臣　森有禮

勅令第三十五號

高等師範學校高等中學校東京商業學校官制

第一條　高等師範學校高等中學校東京商業學校に左の職員を置く

學校長

高等師範學校ハ勅任二等又ハ奏任一等二等高等中學校東京商業學校ハ奏任自一等至三等

教頭　奏任自一等至四等　教諭　奏任自一等至六等

幹事　奏任自四等至六等　助教諭　判任

舍監　判任　訓導　判任

高等師範學校に限り之を置く

書記　判任

第二條　學校長ハ文部大臣の命を承け校務を掌理し所屬職員を統督す

第三條　教頭ハ教諭より之に兼任す

教頭ハ學校長の指揮を承け教務を整理し教室の秩序を保持することを掌る

第四條　幹事ハ學校長の指揮を承け庶務を幹理す

第五條　教諭助教諭訓導の員數ハ其學科の輕重及生徒の員數に應して之を定む

◎中外新報

○能樂堂行啓　去る二十九日皇太后宮にハ午前八時三十分の御出門にて御陪乘ハ万里小路典侍供奉ハ杉皇太后宮大夫兒玉仝亮原田侍醫吉田竹屋両權掌侍松室七等出仕鴨脚梨木両權命婦又　皇后宮にハ午前九時御出門御陪乘ハ高倉典侍供奉ハ香川皇后宮大夫三宮仝亮高階侍醫千種權典侍樹下小池両權掌侍藤嶋命婦平田權命婦等にて芝能樂堂へ行啓あらせられぬ

○小池權掌侍　仝權掌侍にハ去る三日　皇后宮の御使として故一品有栖川親王の御百ヶ日に付仝邸へ差遣せられしと云ふ

○帝國大學課程　帝國大學にてハ此の程分科大學諸學科の課

程を法科工科文科理科ハ三周年醫科ハ四周年と定められし由

○高等師範學校長　歩兵大佐山川浩氏ハ去る廿九日高等師範學校長に兼任せられ奏任官一等に叙せられしと

○文部省　仝省にてハ去月廿九日を以て東京師範學校を高等師範學校とし同校の附屬たりし体操傳習所を廢して更に体操専修科を置かれ東京職工學校を帝國大學の附屬に東京大學豫備門を第一高等中學校に大學分校を第三高等中學校になされたりとの事

○看護婦　東京有志共立病院内看護婦教育所生徒にハ最早第二期を卒業して病者の取扱方にハ悉皆熟達せしと云へり

○帝國大學學生服制　帝國大學に於てハ今般同學々生の服制を左の如く定められし由文部省の報告ニ見ゆ

一分科大學々生ハ制帽制服を着用すへし

一服制ハ本學に出入するときハ勿論常時たりとも外出の節ハ必之を遵守すへし

一冬服ハ十一月一日より五月三十一日まで夏服ハ六月一日より十月三十一日まで着用するを以て通例とす

一大學院學生ハ各自便宜の洋服を着用するとを得

一撰科生徒別課醫學生製藥學生及古典講習科生徒ハ制服制帽を着用するとを得す

一服制實施の期限ハ明治十九年十一月一日とす但し其巳前に此制に依るも妨けなし　（圖面略す）

○惻隠の心最も切なる婦人　米國インデペンデンスのモードロングと云へる一婦人ハ惻隠の心最も切なる人ニて或る狂者が二個の小兒を雪の中に棄置きたるとを聞き开を救ハんとて深夜に厳寒を冒して右の小兒を救ひたる由なるが其の奔りゆきし道程ハ三英里ばかりありしと依てカンサス府民にハ之を表章する爲め金時計金剛石入指環弁に金三百弗を贈與せし趣

○高等中學校長　第一高等中學校長にハ野村彦四郎氏第三中學校長にハ中嶋永元氏が任せられしと云へり

○篤志家　久原庄三郎古川長兵衛の両氏ハ我國採鑛冶金學科の進歩を欲望する餘り官立學校にて右學科卒業の生徒甲乙二等の者へ金銀賞牌を下附し其榮譽を表彰されなば將來進歩の一端とも相成るべしとの意にて金員若干を文部省へ上納せしやに聞けり誠に以て篤志家と謂ふべし

○ルーイ、ミッセル女　仝女ハ先年過激の説を唱へて騒乱を教唆し久く獄裏に呻吟せし佛國有名の社會黨なるが先頃大赦に遇ふて自由の身となり去月の初旬にハ米國に渡航して該主義

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を廣める目的ありし由にて全國にある佛國の亡命人等ハ之を接待せんとて頻りに奔走し居たりとの事

○華族青年會　華族鍋嶋直彬氏外數名にハ今度題號の如き一會を組織せられ専ら華族の子弟を集めて政治法律ニ係ある學術の討論會を開かるゝやに聞く

○婦人教師御雇　米國人フルベッキ氏の令孃ピー子ハ今般文部省音樂取調所の教師になりたりとの由

○福田會　本郷なる全會育兒院の現員を聞くに四歳以上八才までのもの十一名四才以下にして里に遣ハしあるもの十名都合男女とも二十一名ありと

○大阪女子高等學校　先頃大阪教育會に於て議決なりし女子高等學校設立の件に付てハ全府廳學務課にて専ら取調居られし處已ニ取調濟になりたれば文部大臣へ伺の上ニて彌ニ設置せらるゝとぞ

○婦人射的會　大山伯爵夫人其他貴女方の發企になり外國婦人の贊成を得て今度射的會を設けらるゝ筈にて全婦人方ハ目下頻りに其規則等の事を協議中なりと云へり

○又決闘　前號ニ佛國のワルセール夫人と米國のシエルビー孃が決闘せしことを記載なせしが今又去る三日發兌のガゼット新聞に記載する處を見るニ何れの國なるにやワルソーと云へる處にて男兒と決闘せし一婦人あり當初男兒ハ此の婦人の姿色あるに眷戀して开を娶らんことを云ひ出しに婦人ハ一向肯せざるを以て今ハ戀しさ餘りて却て憎しみを生し婦人の身に有ると無き事云觸して其名譽を傷けんと謀りしかば人ありて此事を婦人に告け誰か然るべき代人を以て先方へ嚴談ニ及ふべしと慫慂したるにぞ婦人ハ大に憤り自らの榮譽を毀損されたるからハ敢て代人を待す自ら決闘を申込むべしとて直に之を男兒の方へ申込たり爰に於て日を刻して双方出會し短銃を以て闘ひしに狙ひ外れて共に恙なかりしかば婦人ハ又々雌雄を決せんと云出せしも立會人之を止め阿孃の榮譽ハ已に回復されたれば何ぞ又決闘なすに及ばんやとて固く制しけるに依り婦人ハ漸くに思止りたる由なるが男兒の方ハ此勇氣に恐れ公然たる謝罪狀を婦人へ差入れけりと云々

○學事會　來る十日文部省に於て第一地方府縣聯合學事會を開かるゝ由其項目ハ現今管内學事の景況師範學校生徒授與品並に食物詳細寄宿舍搆造及び坪數等にて東京神奈川千葉埼玉群馬栃木山梨新潟長野等の各師範學校長が集會さるゝと云ふ

（本月六日繪入朝野新聞）

三百二十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○ケリー氏幼兒教育學の飜譯

〔第一節〕初等教育の三時期　初等の教育に於ては時期を三つに別つこと通例にして生れしより六歳六箇月若くは七歳に至るまでを嬰兒期といひそれより十二三歳に至るまでを幼兒期といひまたそれより十六七歳に至るまでを少年期とはいふなり各時期を分つところの年齢も場合により一定し難けれども幼兒の心体發育上に於て自然に定りあり卽ち嬰兒期に於ては心が外物に觸れて動くところの組織いまだ全く成らず幼兒期においてはこの組織の完全せんことを促がして止まず少年期に於ては自ら開發して中道になり心の働きによりてその利益を感じまた教育者に對し稍々みづから堪ふることを始むるなり若しこの時期の中一期にても等閑視去りて各々ろの性質の好む所に隨ひこれを導くことなきときは初等の教育を全うせしものと云ふべからずこれに反し第三期の教育を第四期卽ち壮年期に續くる時は教師は至當の順序に隨ひ至當の教育をなすに止らずこの時期は自ら教育を適用するの時なれば生徒をして學修を好ましめんことを勉むべしこれ殊に熟練の教育を要するの時期なりとす

（以下次號）

○泰西箴諺の直譯

（甲）㊀悪しき㊁内衫（婦人の）（も）㊂總て無き、一もなき㊃より㊄より良く㊅有る

（乙）㊀約束する㊁べく㊂遅く㊃あれ㊄然れども㊅行ふ㊆べく㊇速か㊈なれ

（丙）㊀嬰兒（は）㊁母の㊂錨（で）㊃有る

マキシムス　プロヴォルブス

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

エ　バッド　シフト　イズ　ベター　ザン　ナーン

（甲）A bad shift is better than non.

㊀ ㊁ ㊅ ㊄ ㊃ ㊂

〔意譯〕悪しき内衫も無きよりは良し

ビー　スロー　ツー　プロミス　バット　クイック　ツー　ポルフォルム

（乙）Be slow to promise, but quick to perform.

㊃㊈ ㊂ ㊁ ㊀ ㊄ ㊇ ㊆ ㊅

〔意譯〕約束は之を結ぶに早からず行ふに早かれ

エ　ベーブ　イズ　エ　モーゾルス　アンコル

（丙）A babe is a mother's anchor.

㊀ ㊃ ㊁ ㊂

〔意譯〕嬰兒は母の錨なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

HAI NO AZAKERI.

Seiyo no kotowaza ni, "gai wo nasitaru ue ni azakeri," to iu koto ari. Aru rojin no hage-atama ni ippiki no hai tomarite sikirini tutukikereba, rōjin wa ōini ikarite, ide kono hai wo tataki-korosan mono wo tote, te wo agete ono ga atama wo itaku uti kao wo sikamekeru wo mite, kano hai wa azawarai katu chōrōsite iwaku : "anata wa kono chisaki hai ga sukosino jama wo nasesi tote sono inochi made wo toran to nasaru wa amari no o haradachi to mōsubesi, anata no atama ni tomaritaru ga ue ni naomata kono tōrini chōrō itasitaru woba ikani nasaru zo ?"

◎内外列女傳

和泉式部女房十五人小傳ノ内　　椎ヶ本主人述

和泉式部は。大江雅致か女也。はし先和泉守橘道貞の妻となり。小式部を産り。道貞。和泉守たりし故に。呼名とせり。後に丹後守保昌に嫁して。かの國にも下りし事あり。此女。歌に傻れたれば。神慮にかなへるが多し。後拾遺集。神祇　男にわすられて侍けるに。貴布禰にまゐりて。みたらし川よ。螢の飛けるを見て。

物もへハ澤の螢も我身よりわくかれ出し玉かとぞ見る

御かへし

奥山にたきりてれつる瀧津瀬の玉ちるばかり物な思ひそ」

此歌は。貴布禰明神の御返し也。男の聲にて。式部か耳に聞えけるとなん。いひ傳へたる。又風雅集。神祇

もとよりの塵にましはる我なれば月のさはりも何かくるしき。」

是は式部。熊野へ詣てけるに。さはりありて。奉幣かなはざりけるに。

晴やらぬ身のうき雲の棚引て月のさはりとなるぞかなしき。」

とよみて。ねたりける夜の夢に。告させ給ひけるとなん。又砂石集に。和泉式部。保昌にすさめられて。或神巫をかたらひて。貴布禰よて。愛敬の祭をせさせて。中略

千早振神のみるめもはづかしや身を思ふとて身をやすつべき」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

かの心の內。わりなく優に覺えければ。保昌これに候ふぞとい
ひて。ぐして歸りて。心さし淺からすなんありける」とあり

○烈婦岡谷きわ子

そべてわらはが心をさなきよりしてかゝる事に立至れるなん
いわん方なき事なりけるさるはかの志れものがたくみなりと
はつゆ知らでさいの比此家のやとひわけて我家へかへらんを
りにはよろしききぬあまたきせて給へなどいひしかばそれい
と易き事なり與へてんといらへしかゞばさらば其事一筆なりと
もものに記して得させよと云ひける何心なく書て與し事あり
き其後人みぬをりにはより來てわが云はん事にしたがいてよ
などたびく云ひたりしかどさる事たはふれにもきゝ入れす
きびしくこばみしよりいたく憤りて此事あるじにつげもした
らんにはいみじき恥をさせてわの身はいかなる罪にもおたらん
あどうらみ云ひける折もありきさて其後もなほさまぐに云
よりしかどつゆ聞入れぬ所よりなき事を作り出てゝわらはを
父上とあるまじき事ありしを見たりそれを人の口かためんと
てよききぬをあたへん人にな云ひぞと云ひたりしにはあらす
やろの志るしの書えさせたりしは忘れたりやなど思ひかゝぬ
事しこしらへてわらはをせむ此事人に云ふへきよしあらねば
神佛に祈りかれが心のうち和く折をなん万につけて願うより
外の事なかりき此春の比かとよ彼者夜中に庭中にしのびてた
ゞずみをりしを父上の見つけてあやしみいかり給ひしもそら
はに心ありての志わざなりし事はしるく侍り其後はとかくに
わらはがつれなきを惡みて此事必そむくいせんなど折々いふ
其かほつき更よ人とは見へすものゝつきさろひさらん心ちして
いと氣をそろしく身の毛もよだつ計になん此事ありのまゝに
つげまゐらせたらんには此家の恥かゝやかさん事もいで來ぬ
べく命いきて恥みんよりも彼を殺して此身も死なばやと思い
めぐらしても女の身にては思ふまゝにもえはたすまじくうち
もらして中々の恥よもなり侍りぬへし思へはなほ我身死そる
より外に道あるまじくかつは死して此恨を彼が身にはふさば
やと思ひなりぬるもせんかたなき心の程と見ゆるし給へなと
いと多くかきてろれをばふかくものゝ中にかくし置きのんざ
しよちひさく結べる紙のはしに此書のこせる文ある事をしる
し置て明治十三年八月九日の午後九時ばかりの事なりき人ま
をうかゞひて心つよくも思ひ立ぬるものゝな一尺二寸ばのり
なるかたなをとり持ておのが寐とところながらに自ぶのどをさ
しつらぬかれにけり

（以下次號）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○申桂隆の妻徐氏　（表壽傳）

明の乾隆年間儀封漫口の監司委員を派遣して救恤の事を勘查せし事ありし時に候補佐員申桂隆と云へる人も此中にありて出張し居りしが或る日黄河を渡らんとして急に風吹き出し其乘り居たりし舟看る〳〵覆りて皆な一同に河中へぞ陷りたりされども助け舟を出せしものありて皆な不思議にも生命を助かりしに申桂隆一人漂沒していづれに行きしや其死骸さへ見えざりしかば詮方なく死せしものに相違なしとて其の趣きを故鄉景州にある妻徐氏の許へ知らせにければ徐氏の慟哭は大方ならず遠き處も事ともせず狂氣の如く馳せゆきて黄河の流れを打まもり暫ばし淚に咽びたりしものかくて止むべきにあらねば頓がて良人の死骸を搜さんとて身を跳らせて水底に沈みたるを傍に居合せたる人々助けあげて之を景州に送り屆けぬ氏は此の時年二十あまり小兒も持たねばいと若く姿色も殊に勝れたれば打見るなは二八の春を迎へたるばかりなれば或は其の依る所なきを憐みて他の家に改め適がんとを諷そるものあれど氏は脣を齧て血を哽り吾が良人は已に軀を王事に捐たりわれ未亡人は同しく波濤に葬らるゝ事能はざるころ遺恨なるに尙は生を人世に偸まば泉壤にある良人に對し愧かはしき事限りなく他日泉壤へ往ぬるとも何と面をば會さるべきぞ加之ならす倘し更に他念を萌すとありては狗彘とてもわが餘りはよう食ふまじと固く執て用ゐもせす只た一筋に死ぬ事を思ひつゞけて飲食を廢しされども日を經るまゝに死もせざれば這回は人まをはかりて帶を梁にかけあはれ果敢なくも首を吊りてぞ殉死したり是に於てか中丞陳公はこれを朝廷に奏聞して閭里に旌されしと云へり女の狹き心から思ひせまりて斯くなん造作もなく貴重の生命を捐たるは今學ふへき事にしもあらねど其眞心を抑そときは全く貞節を重んずるに出たるなれば讀者は其眞心のある處をとりて學び給へと云爾

○平通盛卿の夫人

平淸盛の弟從二位門脇中納言敎盛の嫡男三位通盛卿の北の方は刑部卿範方の女にして當初上西門院に宮仕し小宰相の君と申せしが美人のほまれ禁中に高く公卿殿上人孰れも其色香を愛慕はざるはなかりき安元の比かとよ此君二八の春を迎え女院法勝寺へ花見の御幸ありしに供奉されしが通盛卿も當時中宮亮にて供奉せられ其姿をかい間見給ひて坐ろにあくがれ戀慕ひ夫よりは歌を詠み文を盡されけれども一度も返事さえせられすしてつれなくのみ打過きられし事已に三年が程にもな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りければ通盛卿も今ハ是迄なりと最後の文を書て遣ハされしに小宰相折悪く居給ハず使の者ハ空く帰る途にて家より御所へ出らるゝに逢たればこハ幸なりしと悄と其文を乗れし車の簾の中に投込たるにぞ小宰相も車に置べくもあく大路へ捨んも流石なれバ詮方なく緋袴の腰板に夾みて御所へ出られしが誤て之を御前に落されたり女院早くも拾せ玉ひ女房達を召て其主を尋させ玉ひけれども誰とて知候ハすとおん荅ゟ及ひけるうち小宰相のみハ顔打赤めて何とも申上げそ女院も薄々通盛の焦るゝ事を知召れしかば文を披きて御覧そに中々一通りの執心にあらざれどもつれなくのみ過そと見えて奥に一首の歌を認めたり

三百三十二

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

我戀は細谷川のまろきはしふみかへされてぬるゝ袖かな

女院餘りに人の心强さも遂には怨となるものなりとて忝なくも自ら筆をとらせ給ひて小宰相の爲に返事せさせ給へり

唯たのめ細谷川の丸木橋ふみかへしては落ちさらめやは

通盛卿の嬉さ如何ばかりぞや伉儷の情淺からず壽永の二年都落の時も從ひて船の中に御座しが通盛卿湊川の邊にて討給ひし由從者瀧口時員の知らせを聞かれしより凡そ七晝夜が程は歎きに沈みて起も上らず遂に乳母の女房が諫をも用ゐ給はず八島へ押渡る途中にてこの腹にやどれる子を育て故人の紀念とも見ばやとは思へども其れを見る度ごとには昔の人の戀しくなりて思ひの數のみ增とも慰む事はよもあらじ心に任ぬが世の習なれば思はぬ外の事もぞ出來んそれも思へば心憂し遂には誰とて遁べき道にあらねば生て居て兎角に人を戀んより寧ろ水底に沈てんと乳母の目睡たる隙を窺ひて舷に迎出つ千尋の底へ飛込れぬされども夜ぶけ人定まりたる頃なれば孰の船の人々も知る事なく但一人の水手ありて女房の海へ入せられしぞと呼はりつるに乳母も打驚きて噪立ち大勢にて取揚んとすれども春の夜の習にて海面打霞て見わかす遙に程經て取揚たれども息は既に絕たるぞ哀なる王蠋の語に忠臣二君に仕へす貞女二夫に見へすと小宰相の君も亦此語を守られさるものか

◎群芳詞苑

○寄松祝　　加賀　安達　安子

琵琶の海の波の調へにのきならそかせものとけき唐崎の松

○若草　　東京　阪井　宮女

若草のおのかさま〳〵萌出てゝのへはさなから烟なりけり

○山花　　同し人

吉野山みねにも尾にも白妙にちもとのさくら咲き出にけり

○秋夜聞笛　　遠州　香雲女史瀧口

已望西山過夕曛。遙聞悲笛數聲分。樓頭月上徘徊久。賓雁南翔入一朶雲

評自有秋夜之趣

○櫻樹題詩圖　　河内　鐵心居士橋本

賊軍猖獗乱中原。慷慨揮成恢復言。十字赤心優万語。一枝刀筆貫乾坤

評先節校機實士人所可學

○庭前古松（田居小景記第一）　　仝　人

余家庭前有一松樹。亭々高聳。龍鱗蒼々。嚴霜不能侵。望之令人自然有興起。余推以爲忍耐之友。不知太夫肯乎否

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

○閨秀新品

○旅宿山吹　東京　櫻間　雪女

みちとへといわぬ色ある山吹の香にめてつゝも一夜やとりぬ

○旅宿山吹　朽木　塙　竹子

草まくらむそふ旅ねの夢さめてあさふつそてに匂ふやまふき

○汐干　本所　望月　光女

蛤につひ深入りや汐干潟

○春日郊行　下毛　竹江　女史

吟行石瀬北。啼鳥綠楊堤。嫩草踰芽去。斜陽遠岑低

○十七號宿題野遊　靜岡　田宮とみ女

野遊や洋服きたる女の兒

野遊や春日も今ハ人力車

○數學木綿云々の答式

$$3:7{,}5=54{,}5:x$$

$$x=\frac{7{,}5\times54{,}5}{3}=136{,}25$$

壹圓三拾六錢二厘五毛

右阪井和歌子全みや女の答式なり

○新題

和歌（つゝじ）　俳句（菜花）

詩（春日望江）五七言律隨意　文（東髮辨）和漢文共隨意片假名交りハ三百字を限る

數學題

人の歩むより人力車の速さハ二倍にハ及ばさると三分の一なり然らハ人歩みて八時十五分よ達する處ハ人力車にてハ幾時を費やすや

◎學藝一斑

○西洋女禮一斑

世間の交際に於て最も必要なるものハ禮儀の心得なり從來我が邦の婦人ハ只深窓に養はれて容易く他人に接することをなさゞるの風習なれば禮法もまた完全のものと爲すべからず諸禮とか女禮式とか云へるものゝ有樣を見るにいまだ野蠻風を免かれずして茶あるひハ烟草盆の出し樣抔と云ふが如く多くハ男子に給侍するの左法にして奴隷式たるに過ぎざるなり今や日に月に開明進歩の時よ當りてハ婦人と雖へども男子と均しく世間の交際をなし蹈舞會にも赴くべく夜會懇親會にも到るべくその他公禮の場に臨むことその日に增し繁げゝる世の中

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と進み行き身には西洋の衣服を着るも心に彼の邦の禮法を知らずてやはあるべきぞされば本號より引續き禮法書中より婦人に必要なることどもを抄出し以て彼の邦禮法の一斑を知るの便に供せんと欲するなり

〔第一、紹介の事〕　互に能く知らざる人を紹介するには前以て自らよくその人の性質等を聞き合すべし總て人を紹介する時は先方の人に對しその人の事は一切引受くべき責任あるものなれば熟知せざる人を紹介するには別て注意すべきことにして万一これを怠ることある時は後に至り自身の信用を社會に失ふことあるべし愼むべきことなりかし

すべて男子を婦人に紹介するを禮となし決て婦人を男子に紹介すべからず禮法上に於ては婦人を男子よりも尊き方となすが故なり假令社會上にては位階ある男子にて婦人よりも高位の人なりとも禮法上にては男子の方を婦人に紹介すべきことなり總て人を紹介するには卑き方を尊き方に紹介するの主意なりと心得べし

婦人に婦人を紹介し男子に男子を紹介する時は年長の方に年少の方を紹介すべし

男子を婦人に紹介するに當りては前以てその紹介を受くる婦人の許可を得ずして接見せしむ可らず

人の紹介に由り男子と初めて對面せるときは婦人の方より手を出して握手の禮をなさんとすべからず紹介に由て初めて對面する時は相互に目禮にて充分なりとす大陸諸國にては婦人は極親密なる附合をなすものゝ外男子と握手の禮を行ふこと絶えてなし

早問者（モーニング、ヴィジトルとて午後早く來りたる問候者を云ふ後ちに委しく記載すべし）の同時に來り偶然客間にて落合たるときは前以て其客の承諾を得たる人にあらざればその坐にて決て紹介すべからずまた斯の如く友人の宅に於て偶然他の客と出會したるものは假令紹介なしと雖も從來熟知せるものゝ如く勉めて自由に談話をなすべしかゝる場合に於て相互に默坐せるは却て不行儀に當るなり

友人の宅に於て出會したるものその後他所にて出會せることあるも相互に目禮をなすべからず目禮は互に知り合ひ居ることを表する儀式なればいまだ紹介なきものゝ互に知り合ひ居るの筈なければなり

（以下次號）

○ワールン氏西洋料理法の翻譯

鳥類選び方の心得　吐綬雞の若きものは滑らかなる黒色の脚

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に短き距ありて眼に光澤ありまた新鮮なるものはその脚軟のなり此諸項を欠くものは老鳥且つ新鮮なるものにあらずとす

雌雄ともにこの諸項に氣を附くべし

雄雞の若きものは滑かなる脚に短き距を持ち且つ新鮮なる時には肛門密閉して黒色を帶びたり雌雞もまた滑かなる脚と雞冠あるを以て若きを知るべくもし老鳥なれば脚も雞冠もともに粗糙なり善良の雞は腹肉厚くして臀肉大いに胸部膨脹し雞冠厚軟なり

鵞鳥の若きものは觜および脚ともに黄色にして毛なしとぞ且つ新鮮なるものは脚軟らかにして新鮮ならざる時は脚の皮甚だ硬しとす

家鴨もまた鵞鳥と同じ心得にて撰ぶべし

鳩もまた新鮮なる時は脚軟のよして肛門固しとすまた色なきものは新鮮なるものにあらず

家雞の肥えたるものは肛門固くその他大体前の諸鳥と同じ心得にて撰ぶべし

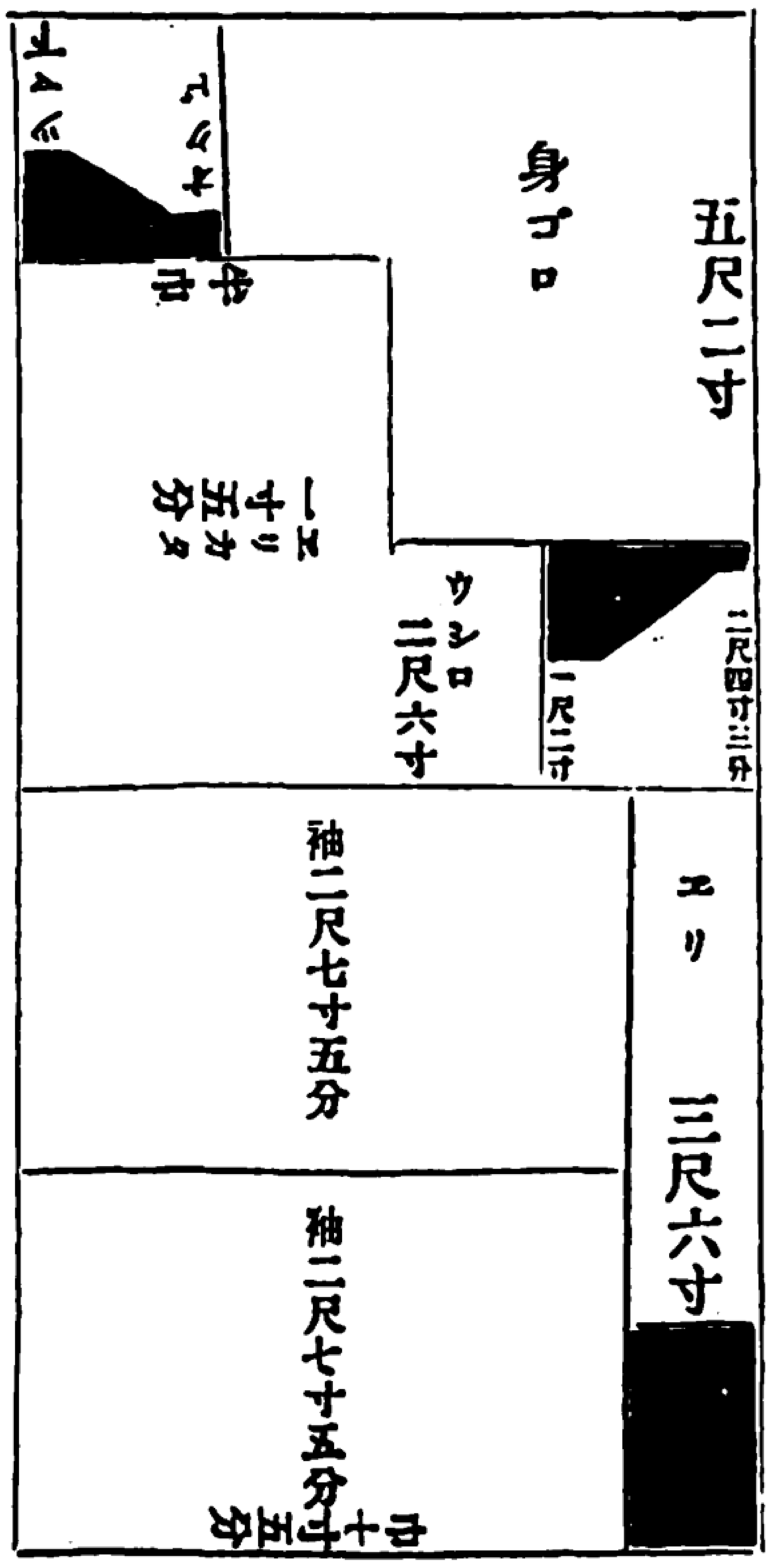
兎の若く且つ新鮮なるものは唇口狹隘くして體硬く爪平滑よして鋭し老且つ古きものは之に反對す牝牡ともその老若を鑑別するよは爪を兩方に開き容易く破れるものは若くまた耳軟のにして容易く屈折し得らるゝものを良しとす

雉子もまた前の諸鳥と同じ心得にしてその雞冠短くして丸形なるを若しとし長く突出するものは老鳥なり

此他小禽もまた大体前の諸項に准じて監別し總て鳥類の白色の脚を有するものは羹物となし暗黒色のものをば燒物となすの習ひなり　（以下次號）

○裁縫二身仕立揚寸法及三ッ身裁方

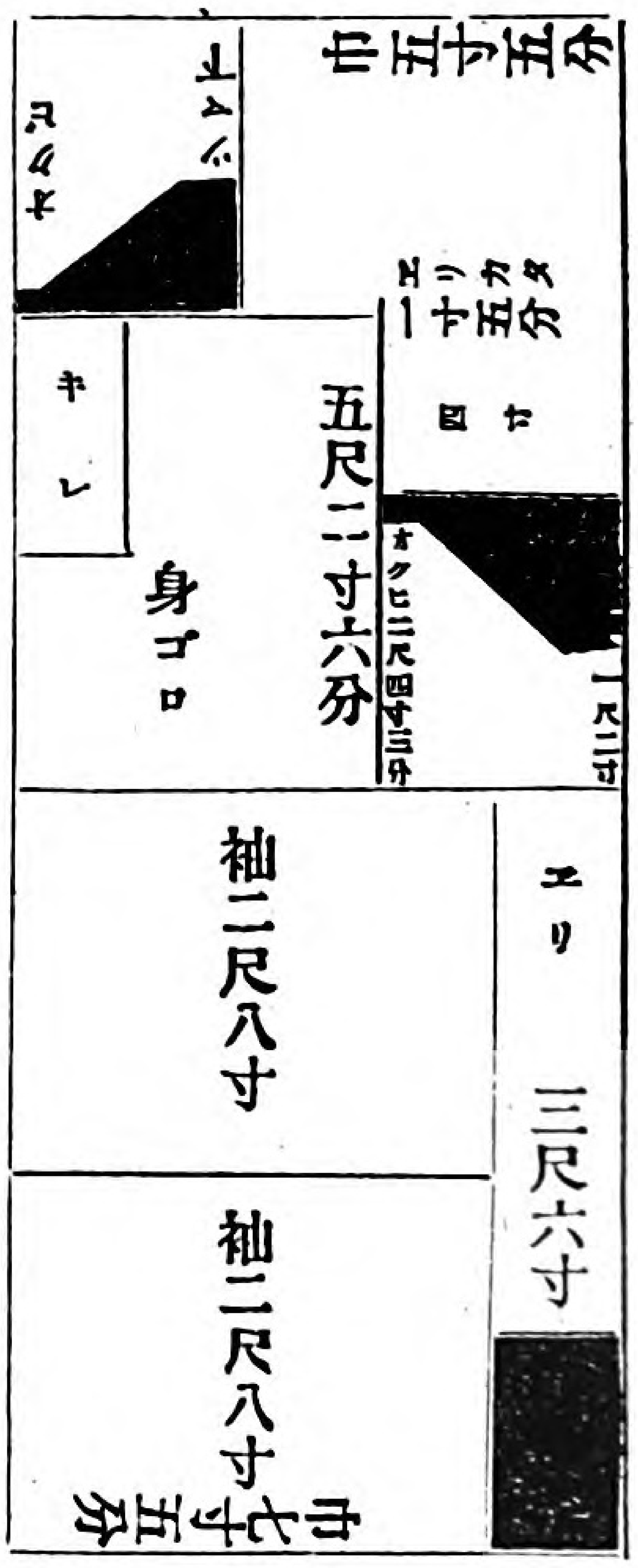
二ッ身仕立揚の寸法ハ丈二尺三寸五分衽下二寸五分身のあき六寸五分襟丈二尺一寸四分袖附四寸五分襟巾九分裬下九寸にて袖巾身巾衽巾ハ布巾一ぱいに縫べし又三ッ身の裁方ハ長一丈二尺五寸巾九寸五分にて丈二尺六寸袖一尺三寸七分圖ハ左の如し



又仝しく紋織裁方ハ長一丈三尺五分巾九寸五分にて丈二尺六

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

寸三分袖一尺四寸其の圖ハ

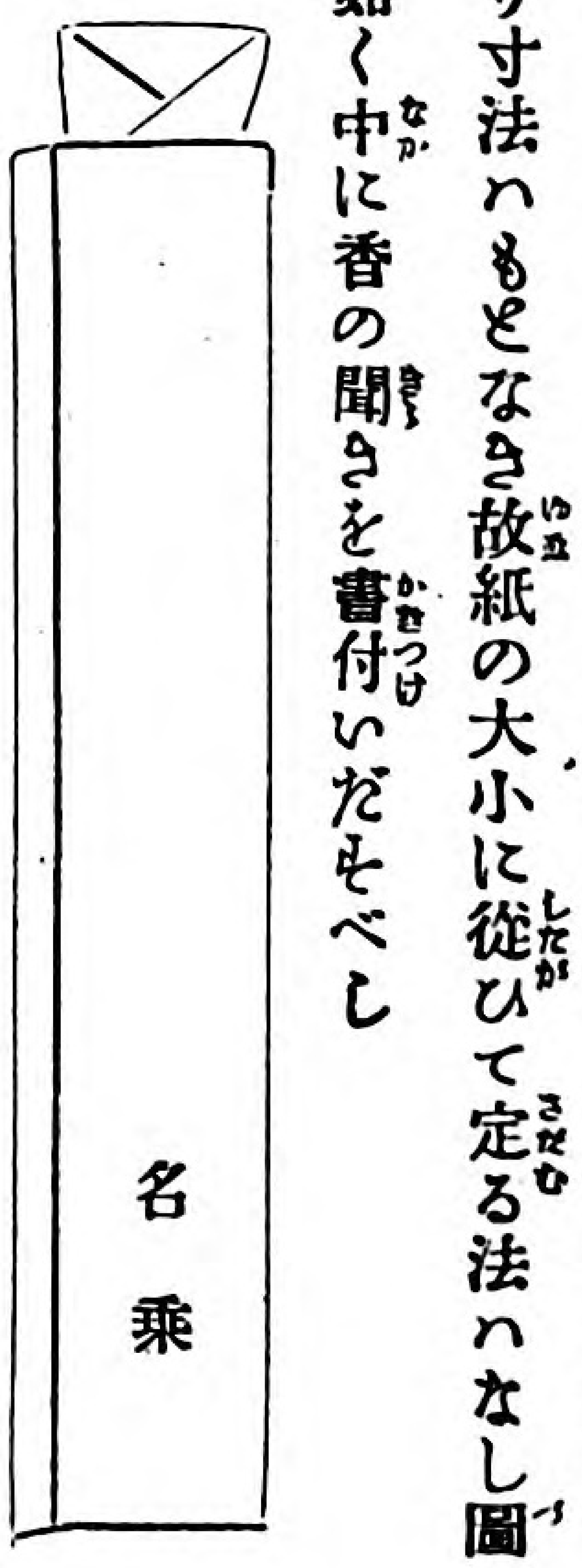


〇革の類の汚れたるを洗ふ法

革類の汚れたるにハ糯糠にて揉み洗ひ其の糠をおとさそして日に乾し揉むべし和らさて垢の落ること妙なり又水につけたる革のこハくありたるにハ革のしめる程酒を吹かけ疊なとの下にしき置き其乾きたる時もめバやハらかになれり

〇香道　（前號續）

〇火かげんの事〇たどんの事〇灰の製法〇香元置合せの事〇香會の式〇銀葉置き取りにのハりある事〇香席法度品々〇香席覺悟あるへき事〇香棚飾やうの事〇記録認めやう〇小記録認めやう〇名乘紙認めやう〇香繼やうの事此の内名乘紙認めやうハ先つ奉書の紙を竪に四つよ切り是を四に折て疊み頭つねのひねり文の如く折て名乘ハ上よ書付るなり又竪四寸六七分横三寸四五分ばかりといふ寸法あり又しるし紙小切紙とも云なり寸法ハもとなき故紙の大小に從ひて定る法ハなし圖ハ左の如く中に香の聞きを書付いだすべし



◎稗史小説

〇西江月話　（第三回）

偖ても瑞虹ハ一族の皆殺されて己れ一人殺されぬを見て思ふやうハ他等必條己れの身を汚辱せんと欲して斯くハ一人活し置きしなるへし去ふハ生て辱めを受んよりハ寧ろ自ら死ぬべしと舷さして奔り出已に江中よ跳り入んとする處をさうハさせじと陳小四ハ斧投棄て奔り寄り双手をかけて抱住めつひくつけさ顔よ笑を含みてコレ小姐よ必ずしも怖り給ふな容貌こそのう恐しけれ心ハ佛も及ハぬ人物先つ安心して快く吾が妻としもなり給へと云ふをも聞かす瑞虹ハ你強盜我の全家の者を殺害せし上尚ほ我身まで汚がさんとするの疾く〳〵其處を放て我れハ自害せんと身をもがけども奈何せん雀の鷹に捕れし如くまた詮術もなかりけるを陳小四ハ這の樣なる花容月貌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いので我れ捨ることを得んと抱きかゝへて艫の方篷の内にぞ入りにけるされども瑞虹ハ猶ほ口に罵りて止まされバ水手どもハ大に怒り阿哥よ世間ハ廣し尋ねたらば一人の妻位ハ何處にもこれあるならん斯ゝる剛情に口狡しきものハ早く殺して去まふがよし阿哥殺さずば我々殺すべしと斧を採て立かゝるを陳小四ハ攔住め待て兄弟とも我分上に免して助け呉れよ其代り明日ハ何等に御馳走すべしと詫ひつゝ又も瑞虹に對ひモフ住口が宜し若しまた罵しりて再び他等の怒を招かば其時ハ最早我れとて救ひ難しと云ハれて瑞虹ハ泣く〳〵も心中に思案しけるハ若し我れこゝに死たらんにハ誰れとて父母や兄弟の仇を報る者あらんこゝハお先〳〵死ぬ場所にあらず羞を含み辱めを忍び生ながらへて仇を報ひ其後死ぬも遲きに非すと纔く々口を閉ちて打臥しつ涙に咽れてありける中水手どもハ屍を盡く江中に拋込み奇麗に船中を掃除して舟を沙洲ある邊に泊し荷物を取出して各分配せんとす陳小四ハ之を停め今日ハこれ十五團圓の夜なれバ我が婚禮するを待ちて一盃の祝酒を飲み然る後公平よ分配せよと蔡武の齎せし酒肴を把出して酒宴を張り陳小四ハ瑞虹を抱きて正面に坐を占めいと莞爾なる顔色して瑞虹に云ふ你と我と郎才女貌一對の夫妻たり今夜親を成せし上ハ友白髮まで添遂ぐべしと此時瑞虹ハ面打掩ひ只さめ〴〵と泣くばかり外に言葉もあらざるに水手どもハ皆な阿嫂を祝ふて一盃を獻せんと盃取つて膝のほとりに押据るに陳小四代りて難有と叫び其盃を瑞虹の手よ持せんとすれど瑞虹ハ手を掉て受取らず陳小四笑て吾妻ハ飲口よあらされバ我れ代て之を受けんと一献一酬已に八九分の醉に到る折から水手等ハ氣を利かして陳小四に睡らんことを勸めけるにぞ陳小四ハ然らば你等ハ寛坐せよと獨り瑞虹の手を把て後艙内に入り堅く其戸を閉ちて寢に就けり惜むへし千金小姐落ちて强徒の手にあり

暴雨摧殘嬌蕋　　狂風吹損柔芽
那是一宵恩愛　　分明夙世冤家

これハさておき水手どもハまだ猶酒飲みてありけるが其うち白滿の云へるにハ阿哥ハさぞ今頃ハ樂みならん誠に羨しき事なりと沈鐵甏の云ふ誠よ然り我々にも些と樂みを分ち呉れゝばよからんよと又秦小元の云ふ我々何の羨む事かあらん他色を樂めば我ハ酒を樂む樂みハ是れ一つなりと沈鐵甏云ふ否な然らず同樣の事をなして他獨り占むると云ふ理やあらん好し明日物を分配する折他よハ少く取らすべしと此時迄口を箝み

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

居りし李鬚子ハ初めて口を開き你等阿哥ハ樂みならんと思ふも是れ樂みならざるの事なり決して羨む勿れ我れハ他を占めざりしを却て喜ふ位なりと皆々之を聞て开いまた何故と問ふ李鬚子云ふ世の諺に云ハぞや草を斬るに根を除かされば萌芽舊に依て發すると他の一家を殺して他のみを殺さす阿哥が夫婦となるハこれ禍の基にして人烟稠密の處に到らば他この事を喊び出して助けを乞ハヾ我々とても生命なからんと是に於て皆な云ふ汝の說尤もなり然らハ明日阿哥に勸めて他を殺さば如何李鬚子云ふ今夜うまき事をなせし上ハいかで阿哥も殺し得んや白滿云ふ阿哥に知らせす悄りと殺ろしたらばよからんか李鬚子云ふ若し悄り殺したるとを知らば阿哥ハ必す恨んで兄弟分の情誼も絕ゆるに至らん其よりも爰に一の兩便なるとあり阿哥の睡居る中此人數にて荷物を分配し些ばかりを殘し置きて逃亡せば後日事の露るゝも阿哥のみにて我々ハ干らす阿哥も亦一人ならバ結句造化の事あるべしとこの一言に皆々同意し黃白衣裳等彼是分ち取つて一個官路に通ぞるの處に到り船を住めて上陸し各袂を分ちて四散し去れり

篋中黃白皆公器　被底紅香偏得意

蜜房割去別人甜　狂蜂猶抱花心睡

（以下次號）

◎御伽草

〇半殺にしてお呉れ

神田旭町邊に慾助と云つて頗ぶる頗ぶるの貪欲爺あり夏もお小袖と云ふ一件にて貰ふことならどんな愁ひめを見やうと厭ハぬ質にてこれまでにも頭よポンコツの二千や三千ハ貰ふために進上されし事ありしが此の程近隣の或る物もちがオヒ慾助貴樣におれが千圓やるが貴樣おれの爲めよ打殺されて見る氣ハないかと戲むれしに慾助ハ忽ち之れを眞に受けてへイとハ云つて見たものゝ能く〱考て見たらば生て居てこそこの金も貰ふことの出來るもの死んたらば耳を揃へて千圓が千圓呉れるのどうか知れない併し全くこれを貰ハぬも惜いものとて申し旦那千圓まではハ入りませぬが小哥を半殺よして五百圓下さる譯にハ參りますまいかとハどこまで深き慾の底やらことに度の知れぬ爺

評豈唯慾助哉世間多有此貪慾人

〇燈謎

九羽之鳥相合而爲一羽鳥

參尾之魚供双而做一尾魚　打一鳥一魚

二百三十九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○謎

紺屋の鹿相とかけて文久と靑錢と解く其心如何

○考へ物

爰に三字名の一物あり中の一字を省くときハ二足動物となり上の一字を去るときハ菓物の類となり下の一字を除くときハ聖人の道を行ふに最も要用の文字となる知らす何物なるや敢て御一考を煩はす

○第十九號字謎及謎の解當者ハ左の如し字謎(甲斐奥羽)京橋友田貞姐芝吉村玉姐番町鵜田淸姐仝堀光姐芝長野春姐栃木縣塙竹姐大阪山田末姐下谷赤松生謎(目がねになる)千葉縣湯本近姐赤松生堀光姐山田末姐長野春姐靜岡弓削濱姐吉村玉姐又十八號字謎(第一盜第二茶賃謎のぼりにてまる)濱松矢部革姐信州松本片端熊本守部康姐第十四號考物(第一二三四六第二ニヒガタ謎中よく見ゆる)矢部革姐十號考物第一つゝじ越前武田高姐仝號第二大てん武田高姐濱松雨森生

◎机の塵

○犯姦仕置の續き

一離別狀無之女を他へ緣付候親元ハ過料但し呼取り候者過料

一主人の娘と密通致候者中追放但娘ハ手鎖をかけ親元へ相渡

一夫無之女と密通致しさそひ出し候者女ハ相返させ男ハ手鎖

一下女下男の密通ハ主人へ渡す但し主人取計可有之事

一養母養女妾と密通致し候者男女とも獄門

一姉妹伯母姪と密通致候者男女とも遠國非人手下

一離別狀遣さす後妻を呼出し候者所拂但し利欲の筋を以ての義に候ハゝ家財取上げ所拂ひ　(畢)

○源語秘訣源氏之大事十五條

桐壺卷　源氏の服有無之事

夕顏卷　侍童着指貫事

同　揚名之助事

花宴卷　翁もほと〳〵まひ出ぬへき事

あふひ卷　大將かり隨身の事

同　ねのこみつひとつの事

榊卷　とのひのふくろの事

明石卷　まくなきの事

うす雲卷　わか君のたもと引綰ひ玉へる事

乙女卷　をしのハもとわるしの事

玉葛卷　水鳥のくかにまとへる事

初音卷　高市子の事

こてふ卷　ひのよそひの事

藤の裏葉卷　朔日頃の月の事

此内誠に三ヶの大事ハ揚名介ねのこ三つひとつとのひ袋也と翁草に見ゆるまゝこゝに掲げて源氏讀む姫達に示めす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つれ〴〵草

椎々本主人述

第十一段

神無月の頃。栗栖野といふ所を過て。ある山里に尋ね入事侍しに。遙なる苔の細道を踏分て。心細く住なしたる庵あり。木の葉に埋るゝ筧の雫ならでハ。露れとなふ物なし。わか棚に。菊紅葉なッと折散したる、さすがに。住人のあればなるべし。かくてもあられけるよと。哀に見る程に。かなたの庭に。大きなる柑子の木の。枝もたわゝになりたるが。まはりをきびしく。かこひたりしこそ。少しことさめて。此木なからましかはと覺えしか。

〔全旨〕此段も。前段と。同しく。家居に付きて。事ざまを。推し量りたる也。

〔語釋〕神無月ハ陰暦十月をいふさて諸神出雲國に行て外にハ神なしといふ俗説に據て神無月と書慣へト實ハ秋穫の祝ひせんとて新穀を酒に作るの意にて醸嘗月なり○栗栖野　山城國醍醐の近傍の地名○筧　竹にて水を通はする物○露れとなふ物なし　聊か音信するものなき世捨人の栖の體也○閼伽棚　あかの具花皿などこしらゆる棚を云閼伽ハ水の梵語なり○菊紅葉　佛に供するハ樒に限らず何の花にても時の物を奉るを閼伽花といふ○柑子　和名抄に柑子和名加無之とあり此加無之を音便にかうじと云今俗に九年母といふもの也○たわゝ　撓む也子の多く結ひて枝のしなひ垂るゝを云○れはえしか　覺えたりきの意也。此しの受詞ハ。過去にて。上に。かこひたりしこそ。とあるこその助辭を。結びたる也、か文字清てよむべし

〔講解〕十月頃。栗栖野を通りて。ある山家へ分入し時。苔むしたる小徑の。只一筋通したる。遙の先に庵あり、其さまハ。落葉の積りたる下に。筧の水音のする計まて。いと物淋しかりしか。閼伽花の。折散したるを見れば。かやうなる所にも。心をすまして。住む人のあるならんと。哀に思居たるに。柑子の子を。人にとらせじとにやあらん。ひしと圍みをしたるを見て。我ならて外に分入る者もなきに。扨々無用なるわざをしたるものかなと。初の哀と思ひたるも。少し興さめて。其人の心の淺さも。推し量られし事ありき。其時その柑子の木の無かりせハ。只哀と見てやみなましものをと。悔しく覺えたりきの意也。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

生徒募集廣告

本校ハ從來米國女教師兩名日本教師數名ヲ以テ英學音樂幷ニ普通學ヲ教授セシガ今般新築候ニ付不日芝區白金猿町ヘ移轉スニ依テ通學幷ニ寄宿生ヲ募集ス又各々ノ望ニヨリ英學音樂ノミヲ專修スルヲ得入學望ノ人ハ學期ノ都合モ有之ニ付本月中ニ申込アレ規則書望ノ人ハ郵劵二錢送附アレバ進呈スベシ

明治十九年五月

芝區二本榎二町目三十四番地

頌榮女學校

○東京高名鑑

此書ハ府會議員區會議員、新聞記者、演説者、詩文書畫の先生、代言人、等を掲載したる重寶の本なり

正價二十五錢 郵稅共

右書籍の外逐次出板書籍廣告仕候間續々御注文を乞ふ

千葉師範學校體操教師馬場壽先生著

訂正増補 小學徒手體操新書 第二版

美本全一冊 定價八錢 郵稅二錢

中村敬宇先生序 湯目北水先生編纂

○歐米女權

全壹冊 定價三十錢 郵便稅四錢

東條竹翠著 繪入かなつき

○婦女庭訓の眞鏡

全壹冊 定價三十錢 郵便稅四錢

七條峯太郎編輯 女子必携 鼇頭作文要用字類

○女子作文楷梯

和製中本全壹冊 定價金貳拾貳錢 郵便稅四錢

馬場壽先生著

○啞鈴體操新法

美本全一冊 定價金十錢 郵稅金二錢

漢馬融撰 日本佐藤棍先生旁釋

○忠經旁釋

木板手刷 正價拾錢 郵稅四錢

○明治英名傳

正價金三十錢 郵稅共

○人命保險 人間長壽法

正價郵稅共三十錢

○清國漫遊誌

正價金四十五錢 郵稅自便

小學生徒 美容術

全一冊 定價金八錢 郵稅金二錢

東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地

發行所 績文舍

持主兼編輯人 松本義弘

印刷人 初鹿野銻五郎

女學叢誌賣捌所

大賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂

同 神田區淡路町 巖々堂

同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂

同 神田區雉子町 國々社

同 日本橋區新葭町 良明堂

同 牛込肴町十七番地 活神堂

同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂

同 蠣殻町貳丁目 信文堂

同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂閣田

同 同 本郷春木町貳丁目 解明堂

同 牛込區牛込神樂町 積善舍

大坂府備後町四丁目 岡嶋支店

千葉縣千葉本町一丁目 立眞舍

藝州廣嶋大手町一丁目 早速社

江州彦根西内大工町 新々堂

陸前國仙台大町四丁目 木村文助

越後國長岡裏壹之町 大橋書房

驛遞局認可

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY